

令和2年度N I E実践報告

鹿児島県立指宿高等学校

1 目 標

新聞記事の活用を通して、情報リテラシーの涵養を図り、探究的な見方・考え方を働かせ、自己のあり方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質と能力の育成を目指す。

2 育成を目指す資質・能力

- (1) 情報を正確に読み解く「読解力」
- (2) 情報を幅広く収集し、多面的に理解し編集する力
- (3) 実社会や実生活と自己との関わりから、課題を発見し解決しようとする態度
- (4) 自己を取り巻く環境と自己の生き方を結びつけ、探究し続けようとする態度

3 実践報告

(1) 金曜日「朝コラム」の時間の活用

① 概要

本校では、従来からN I E実践として、毎週金曜日のSHR前の10分間に「朝コラム」の時間を設けている。「朝コラム」とは、選択された社説や新聞コラムを読み、文章要約や自らの考えをまとめる活動である。実施方法は次の通りである。①小論文指導の担当教諭が当番制で記事を選択してワークシートを作成する。②学級担任は、生徒の要約や記述を確認してコメントを記入して生徒にフィードバックを返す。

(実践例)

分野	テーマ	引用
福祉	介護の社会化	『南日本新聞』「社説」2020/4/26
経済	九州と人口減少	『西日本新聞』「オピニオン」2020/5/18
環境	気候危機	『福井新聞』「論説」2020/6/23
情報	コロナ感染者とプライバシー	『朝日新聞』「社説」2020/8/31
社会	若者の政治参加	『南日本新聞』「デスクの目」2020/11/8
技術	世界のトイレ事情	『毎日新聞』「余録」2020/11/24

② 課題意識

昨今、実用的な文章やグラフを読み取る「読解力」の養成が求められている。一方で、近年のSNSや動画サイトの普及によって、論理的にまとめられた文章を高校生が読む機会は日常生活の中から減ってきている。本校でも、入試改革の影響や入試方

式の多様化の中で、生徒の「読解力」を養成することは喫緊の課題となっている。以上のような理由から、本校では「朝コラム」を通して週に1回、社説や新聞コラムに触れる機会を設けてきた。しかし、記事の十分な読解が行われないまま感想文を記入するケースも多く、十分に活用できていないという課題が見られた。

③ 実践と成果

そこで、ワークシートに段階的な問いを設定することで、生徒が記事の構造をふまえて背景や論点を読み取ることができるように改善した。以下はその例である。

(例1) 介護保険20年：制度維持へ改善を急げ(『南日本新聞』「社説」2020/4/26)

Q1 なぜ特別養護老人ホームに入れない待機者が32万人を超えているのか、背景を説明せよ。

Q2 あなたは、介護職員の待遇改善のために利用者の負担金額を引き上げることに賛成か反対か。また、そう考える理由を述べよ。

Q3 なぜ、指宿市健幸戦略係は「ころばん体操」を推進しているのだろうか？

(例2) 環境白書に「気候危機」：持続可能な社会変革必要(『福井新聞』「論説」2020/6/23)

Q1 「気候危機」によってどのような問題が起きると言われているか、簡潔に説明せよ。

Q2 従来型の社会システムには地球環境にとってどのような課題があるか。具体的な例を挙げながらあなたの考えを述べて下さい。(例：食品・衣服・働き方…)

Q3 なぜ、地球温暖化対策を求めるデモを「若者」が中心となって行っているのか？

以上の問いの工夫によって、多くの生徒が、記事を丁寧に読み込み、内容を踏まえた意見を書くようになった。さらに本年度は、ワークシートの裏面に関連資料とQ3を提示することで、地域社会の取り組みとの関連性に気づき、国内外の社会問題を実生活に引き寄せて考える機会を設けることができた。

(2) 2学年「総合的な探究の時間」における活用

① 概要

本校2年生は、総合的な探究の時間に自身で設定したテーマに基づいて「I-style(課題研究)」を行っている。火曜7限の時間に課題テーマごとに6つのゼミ(経済と産業、共生、環境工学、インフラ技術、医療と福祉、生命と環境)に分かれて活動してきた。

② 課題

昨今，SDGsに示される世界的な社会問題や人口減少社会における地域課題など，多様な課題が社会的関心となっている。同時に，「総合的な探究の時間」や地域課題解決や課題研究に関するコンテストなどにおいて，高校生が関心を持ち調査や探究を行う機会も増えつつある。しかし，日頃から社会問題に関心がない生徒にとっては，課題研究のテーマ設定を行うことが難しいということが従来の課題であった。

③ 実践と成果

そこで，生徒の社会問題への関心を高めるために，以下の2つの実践を行った。

(ア) NIEスペースの設置

空き教室に新聞を並べ，記事の切り抜きを行うスペースを設置した。生徒は記事を活用して「I-style(課題研究)」のテーマを設定したり，研究テーマに関連づけて情報収集を行ったりして探究を深めることができた。

(イ) 新聞スクラップノートの作成

先述した5つのゼミ（経済・共生・インフラ・医療・環境と技術）ごとにスクラップノートを作成し，当番制にして記事のスクラップを行った。生徒は記事について80字の要約を行い，担当教諭はコメントを添えて返却した。スクラップ記事は，ゼミの議論や自身の課題研究の資料として活用することができた。

(研究テーマの例)

ゼミ	研究テーマ
経済/産業	地産地消における経済効果
インフラ	開聞岳火山災害計画とその認知度について
インフラ	電力と私たちの暮らし
共生	全国と指宿の空き家について
生命	海洋生態系の変化
医療	南薩医療圏の現状とこれから

新聞活用の成果として，生徒が設定したテーマに次のような傾向が見られた。従来は，インターネットや文献のみを用いて研究課題を設定する生徒が多かったが，新聞の活用によって，地域課題に関するテーマ設定が増え，実際にインタビュー調査を行うなど1次データを収集する生徒も増えた。また，世界的課題に関しても，地域社会などに結びつけて探究し，課題の当事者としての視点を持つことができた。

(3) 3 学年「小論文指導」における活用

① 概要

本校3年生は、「総合的な学習(探究)の時間」を中心に、進路や探究テーマに応じた内容について小論文作成を行っている。生徒は9つの分野に分かれて小論文を作成し、担当教諭が添削指導を行ってきた。

② 課題

昨今、入学選抜試験において、データの読み取りや論述問題を課す進学先も増えてきた。特に、小論文入試においては、読解力や記述力など総合的な力が重視されている。そこで、本校では、3年間の教育活動を統合し、生徒の論述力を高める実践の必要性が高まっている。

③ 実践と成果

そこで、3年生の希望者に対して、2年次の新聞スクラップノートの取り組みを継続し、記事の収集と論点の整理を行わせた。記事の活用によって、生徒の論述力に次のような効果が見られた。

第一に、要点を整理して簡潔に記述できるようになったことである。この実践では、まず新聞記事の文章を転写し、表現の仕方を学ぶことから始めた。生徒は、情報を取捨選択して文章を書く方法、また、読み手に伝わりやすい文章構成について、新聞記事を参考に学習した。第二に、論拠や事例を用いて説得力のある文章が書けるようになったことである。生徒は、記事を通して、社会問題についての具体的なデータや事例に触れることで、時事的な知識の量とそれを活用する力を高めた。

4 考察

N I E 実践2年目の本年度は、実践の継続性を高めることに注力した。その継続性とは、学年を超えて実践を継続的に行うという面のみならず、生徒自身がN I E の活動以外でも継続して新聞を活用することを期待したものであった。特に、2年次に課題研究や新聞スクラップノートに取り組んだ3年生の生徒達が、進路に向けて継続して新聞を活用する姿からは、一定の成果を見て取ることができた。

今後も、「読解力」の養成や探究学習において、最新かつ多様な分野の記事を得られる新聞の役割は大きくなるだろう。新書や論評に比べて、多くの新聞記事は、客観性の高い「事実(事象)」や「論点」を中心に記述しているため、高校生が自身の考えを構成するための余地と素材を与える。生徒自身が問いや仮説を立てたり、論理的な道筋を組み立てたりするための思考力を涵養するために、これからも新聞活用の習慣や技法を日常的に身に付けさせる仕掛けを学習活動の中に設定していきたい。